

今回の東京大学見学会では、地元仙台では  
発見できない、多くのことを学びました。日本トップ企業の三菱商事、放射線を利用した治療を研究されている放射線医学総合研究所、そして、日本最高峰の大学である東学大学、すべてが私にとって素晴らしい体験となりました。

1日目の午前中、私は、三菱商事の本社ビルに足を運びました。堂々と聳え立つビルの高さに圧倒されました。その高さは、トップ企業を象徴しているように思えました。

三菱商事の方は、やる気と自信に満ち溢れていました。対談で得られたものは非常に大きかったです。その中でも特に「スポーツをするとよい」というお話と、「人間の総合力」というお話が心に響きました。

まず、スポーツについてです。スポーツをすることで、健康な体がつくれるだけでなく、人と人との輪を広げることができるそうです。私は、スポーツは体力をつけるためのものと考えていましたが、人との交流を盛んにするのだと知り、改めてスポーツの大切さを学ぶことができました。また、スポーツでは、調子が良いときもあれば、悪いときもあるそうです。調子が悪いときでも、諦めずにそのスランプを乗り切ろうとすることで、粘り強さが培われると仰っていました。スポーツをすることで、様々な能力が育成されるのだと分かり、非常に感動しました。今、私は弓道部に所属しています。弓道は意外と難しいスポーツで、的に中るときもあれば、中らないときもあり、良いときと悪いときの波が激しいです。時に嫌になってしまうこともあります。しかし、そのような時でもめげずに努力を積み重ねることが重要なのだと思いました。これからも、同じ部の仲間を大切にしながら一生懸命頑張っていこうと思います。

次に、「人間の総合力」についてです。人間の総合力とは、ただ何らかの体験を通じて得られるものではないそうです。様々な体験を通じて習得できるそうです。その上で必要となるのが「教養を深める」ということです。

私は、この「人間の総合力」という言葉をお聞きしたとき、ジーンとくるものがありました。それ程、この言葉に込められている  
意味は奥深いのだと感じました。

私は、将来医師になることを強く希望しています。医師には、高度な専門知識だけでなくこの「人間の総合力」も必要不可欠な要素だそうです。いろいろな分野の本を読んで教養を高めながら様々な体験を通じて「人間の総合力」を徐々に鍛え上げていきたいと思っています。

また、異文化理解に関するお話も心に残りました。異文化に接する際に大切なのは、「自分と違うことを受け入れること」だそうです。海外の文化は日本の文化とは大分異なります。例えば、中国では、電車内で、子供が立っていると、その周りにいる大人たちは、誰もが彼らに席を譲るそうです。日本ではあまりそのような光景を目にしません。しかし、そのような海外の文化を排斥せずに理解することが大切だと分かりました。また、相手が話しかけてきたら、積極的にその話題に耳を傾けることも重要なのだと知りました。人との交流を通じて自分の興味を広げることができるそうです。

これ以外にも、粘り強く考える癖をつけるというお話や、やりたいことにはどんどん挑戦しようというお話など、中身の濃い貴重なお話を伺うことができました。地元仙台ではできない貴重な体験となりました。今回教えていただいたことを高校生活の場でも生かしていきたいと思っています。ありがとうございました。

1日目の午後は、重粒子線に関する研究をされている、放射線医学総合研究所を訪れました。ここでは、従来の X 線ではなく重粒子線と呼ばれる放射線を利用した最先端の医療が研究されています。重粒子線とは、炭素、ネオンなどのイオンが超高速で飛んでいるもので、手術が難しいがんの治療に適しているそうです。長所は、治療している際に身体的な負荷がかりにくいことと、短期間で治療ができることだそうです。

実際に治療室を見せていただきました。自分が想像していたものとは異なっていました。治療室には重粒子線を放射する機器と数台のパソコンが設置されていました。重粒子線治療では、患部に正確に放射線が照射される必要があるため、パソコンを利用して、数ミリ単位で調整を行うそうです。最先端医療というものがどのようなものであるかを、実感しました。

そのような重粒子線治療にも課題が残されているそうです。例えば、がんの局所制御はできても、その後数ヵ月後に亡くなってしまうケースもあるということです。このような課題解決のために、日々研究されています。

放射線医学総合研究所は、世界でも数少ない重粒子線の研究機関のひとつです。そのような機関を訪問することができ、素晴らしい体験となりました。ありがとうございました。

2日目の東京大学オープンキャンパスでは、  
日本の最高峰、そして世界レベルの大学がどのようなものであるかを肌で感じました。

オープンスクールでは、実験室見学ツアーや、入試説明会といったものに参加したり  
宇宙に関する展示を見たりしました。

展示されていた資料を見ていたとき、私の近くにいた東大生の方が、その資料に関して分かりやすく詳細に教えてくれました。

その時私は、「さすが東大生だな」と実感しました。 実験室ツアーでは、東大での研究に使用されている機器を見学しました。中には 1000 億円もする機器もあり、貴重な体験となりました。また、医学部説明会では、医学科で学ぶ 6 年間の教育課程や、入試に関するお話をお聞きしました。このような見学会や説明会などを通じて東大の雰囲気を楽しむことができました。

それまで私は「東大は素晴らしい大学」というイメージがありましたが、今回のオープンキャンパスを通じてその印象がより強まりました。

東京大学・東北大学のオープンキャンパスに参加して感じたことは、それぞれの大学にそれぞれの良さがあるということです。それぞれの良さを十分に理解したうえで、進路を選択する必要があると思いました。

東京大学・東北大学で共通していることは何だろうかと考えてみたところ、どちらの大学の学生の方もやる気に満ち溢れ、そして大学生活を楽しんでいるということでした。また、相違点は何だろうかと考えてみたところ、東北大学では学部ごとに 1 年生から専門的な学習が始まる一方で、東京大学では最初の 3 年間は教養学部で学び、その後進路のふりわけが行われるという点でした。

この点は東北大学と東京大学の大きな違いだと思います。

今回の東大見学会・企業大学訪問では、日本トップレベル、そして世界レベルというものがどのようなものを学ぶことができ、視野が広がりました。そして、自分もその高いレベルの世界で活躍したいと思い、新たな目標ができました。そのためには、今何をすべきなのかということも、はっきり見えてきました。今回の見学・訪問で得られたもの・学んだことは大きいです。そのことを高校生活、さらには、社会人として働くようになってからも、生かしていきたいと思います。実りのある、充実した 2 日間を過ごすことができました。ありがとうございました。

